

## 第 1 1 回 軽井沢 2 2 世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成30年1月30日（火） 10:00～11:25

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 基本会議委員：朝比奈一郎委員、石坂洋二委員、市村初仁委員、  
鈴木幹一委員、西山紀子委員、横島庄治委員、  
志立正嗣委員、貫名礼恵委員、内堀英希委員、  
荻原確也委員、児玉大輔委員

藤巻進町長

### 内 容

#### 1. 開 会

#### 2. 会長あいさつ

- ・ 先日開催された第7回軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチーム（以下「北口PT」という。）の中で、「軽井沢らしさ」という概念について、具体的に統一した見解を持つことが必要なのではないかと意見があった。
- ・ 軽井沢 22 世紀風土フォーラム（以下「風土フォーラム」という。）は、「軽井沢らしさ」を追及するのではなく、提案や政策が軽井沢らしいかを検討する場と考えれば、少し実像的に見えてくるのではないか。
- ・ 「軽井沢らしさ」について判断するのに相応しい直近のテーマとして、民泊問題が考えられる。軽井沢では、行政、議会、関連業界も反対の意向を示している。つまり、軽井沢らしくないという判定である。軽井沢ブランドデザインも、上品で本物の高原保養地を追求するため、軽井沢がどうあるべきかを謳っている。その追求の上で民泊が軽井沢らしいかを議論すれば、少し姿が見えてくるのではないか。

### ○町長あいさつ

- ・ 風土フォーラム基本会議も順調に回を重ね、色々と案が出ているが、それがなかなか形とならず、不満もあるかと思う。しかし、軽井沢町の将来について知恵を出し合い、それを実現していくと共に、基本会議委員が一堂に会して議論を交わす事に大きな意味がある。基本会議を柱に、各プロジェクトチームも色々な形で検討を重ねており、着実に前進している。今後もしっかりお願いしたい。

## 3. 議 事

### (1) 事業者認定制度（仮称）について

○町担当課である総合政策課 企画調整係 課長補佐より、景観を中心とした良質なまちづくりに貢献している事業者を申請に基づいて表彰する制度案の概要について説明

- ・ 景観形成に取り組み、かつ地域貢献活動を行う事業者を、「軽井沢町良質なまちづくり貢献事業者」として認定する制度で、認定要件を満たした事業者を町が認定することにより、事業者の自発的な景観形成の取り組みや地域貢献活動の推進を図り、その取り組みを広く周知することで、良質なまちづくりに寄与することを目的とする。
- ・ 対象事業者は、3つの要件（1. 町内に事務所、事業所が存在している。2. 申請時点で1年以上継続して通年営業している。3. 町に納付すべき町税等を完納している。）全てに該当する事業者とする。
- ・ 認定条件は5つの分野（①景観形成のための事業、②まちづくりのための事業、③商工業振興のための事業、④環境保全のための事業、⑤その他の事業に属さない地域貢献活動事業）のうち①を必須とし、②～⑤についてはいずれかの分野に該当していることとする。
- ・ 審査方法は、第三者機関（風土フォーラムを想定）に、良質なまちづくりに貢献しているかの審査を依頼し、審査結果を踏まえて町が表彰する。

【意見交換】（発言順）

A委員

制度の周知の仕方が重要だと思うが、担当課ではどのように考えているのか。

担当課

報道機関の協力、軽井沢商工会や軽井沢観光協会を通じた事業者への声掛けや、町の広報媒体（町ホームページ・広報かるいざわ等）を活用し、地元業者にこの制度を知ってもらいたい。

会長

実施時期は決まっているのか。

担当課

平成30年6月頃に要綱を制定し、進めていきたい。

A委員

制度周知の方法として、地上戦・空中戦という考え方がある。地上戦とは、商工会議所や観光協会等に、まだ意見を反映する事が可能な段階で意見を求め、制度に関心を持ってもらうこと。空中戦とは、地域メディア（コミュニティFM等）や広報誌、地元事業者の目に触れる機会が多い媒体を活用し宣伝することを表す。この両面で周知するとよい。

B委員

認定条件①～⑤は、抽象的な表現だが、更に細分化するのか、それとも事業者ごとに軽井沢らしさについて議論していくのか。

担当課

①景観形成のための事業については、法律や軽井沢町自然保護対策要綱が守られる事は当然と考えている。②～④に関しては各事業所がPRできる事を記載してもらい、その項目が含まれているか事前審査をする。

会長

新制度実現のプロセスにおいて、今後も意見を聞きながら完成形に向け取り組んでもらいたい。来年度には実施できる見通しも確認できたので、事業者認定制度（仮称）については、町担当課へ更なる努力をお願いし、風土フォーラムとして了承とする。

## (2) 基本会議のあり方について

○事務局より、来年度からの風土フォーラム基本会議の運営等について説明

- ・風土フォーラムではここまでの約2年間、まずは「風土フォーラムのあり方の探求」、及び「グランドデザイン・風土フォーラムの周知・啓発」に重きを置き、様々な取り組みを行ってきた。
- ・来年度からはグランドデザインの一部としてのエリアデザインの具現化、さらなる住民参加を基本とした風土自治のしくみづくりを進めていきたいと考えている。具体的には、①住民とともにエリアデザイン具現化を推進するためのしくみを作る、②年間テーマを設定し、調査・議論を積み重ねながら政策提案を作成する、③町が策定する各種計画等の策定に参画し住民意見の反映を図るという3つの取り組みを進めていきたい。
- ・基本会議が住民と行政の橋渡しという機能を果たすべく、住民参加の機会としてワークショップ等の手法を用いていきたい。
- ・エリアデザイン具現化を推進するためのしくみづくりと、基本会議の運営手法検討へのアドバイザーや、会議運営のサポートに関する業務委託を考えている。
- ・その後は、来年度作ったしくみによって既存エリアデザインと住民意見を融合し、現実的なプランを町の主要な計画に反映するとともに、エリアごとの景観基準等を作成していくことが考えられる。
- ・既存の北口PTについては、来年度からのエリアデザイン具現化のしくみづくりと並行して、新軽井沢エリアデザインを扱う会議体へ移行していくことを想定している。
- ・来年度の委員構成について、現時点で半数程度を入れ替える方向で検討している。基本会議委員の皆さんの考えがあれば、事務局に意見を寄せてほしい。

### 【意見交換】（発言順）

#### C委員

②年間テーマは、保留となっている、軽井沢型コンパクトシティやスポーツウェルネス等にするのか、それとも新規に設定するのか。

## 事務局

軽井沢型コンパクトシティは、短期間で解決できる問題ではなく、町全体の位置付けとし、エリアデザインの影響も考えなければいけない。それらを含め、委員の意見を聞きながら来年度必要なテーマを検討したい。

## 会長

今年度まとめ上げたテーマか新規テーマかは、新メンバーが決定しからの議論次第と捉えている。

## D委員

③各種計画で、50年、100年先を見据えた軽井沢グランドデザインとして線引きするのではなく、各種計画の各段階において風土フォーラムとしても関わるという認識でよいのか。

## 事務局

軽井沢町長期振興計画（基本構想・前、後期基本計画等）の積み重ねの先に、50年100年先の軽井沢グランドデザインがある。また、軽井沢都市計画マスタープランは20年を超える計画なので、エリアデザインで求められていく必要な事項を落とし込んでいかなければ、実体で動く10年、20年と重ならず意味がなくなる。接点を見定めながら関わってもらうのがよい。

## 会長

50年100年先の軽井沢グランドデザインという大構想のためには、町の基本的政策との摺合せ、上位関連計画との整合性も必要である。色々な要素が増え複雑化している事も事実だが、それらを乗り越えながら風土フォーラム基本会議が進化すればよいのか、新しい視点を踏まえ考えるべきなのは今後の課題になる。ただし、基本的な路線を曲げるのではなく、そこには必要な修正枠があるものと理解いただきたい。スポーツウェルネスの課題も気になっているが、来期それをどう引き継ぐのか、課題として肝に銘じているので、ご了解いただきたい。

## A委員

風土フォーラムの取り組みはチャレンジであり、住民と行政の橋渡しという新しいモデルである。エリアマネジメント的な要素が入りな

がら、形になってくる事は素晴らしいと思う。

①エリアデザインの具現化推進については、地域別のテーマとして検討したらどうか。②年間テーマについては、軽井沢コンパクトシティ、スポーツウェルネスについて、全てに取り組む事は難しいかも知れないが、テーマ別議論とエリア別議論を意識しながら全体を束ねられたらよいのではないか。

#### E 委員

エリアデザインについて、合意形成をどのように進めていくのか、具体的なアクションをプランに落とす事が必要。また、各種計画について、長期振興計画等は審議される場が別にある中で、風土フォーラムとしての関わり方、権限を見定めて進めると具体的成果に繋がる。

### (3) プロジェクトチームについて

#### ○事務局より、北口PTについて報告

- ・平成30年1月26日（金）に第7回会議を開催し、軽井沢駅北口の交通機能のあり方と、駅及び駅周辺の町並みづくりについて議論した。
- ・行政、住民、事業者それぞれの立場で役割分担しながら、パートナーとして連携することが不可欠であるという考えで進めていく。
- ・第12回風土フォーラム基本会議では、北口PTの浅野光行座長から、これまでの経過について報告していただく予定。

#### 【意見交換】（発言順）

#### C 委員（北口PT構成員）

地元住民で構成されている新軽井沢の明日を語る会も熱心に参画しており、成果の高いプロジェクトとなっている。

#### D 委員（北口PT構成員）

新軽井沢の明日を語る会からも、活発に提案が出ている。議論するにあたり、内容がしっかり整理された資料が提供されており、構成員として色々検討しやすい。

会長

矢ヶ崎公園の池に名前を付けたらどうかという住民要求も出ている。  
具体的で実現可能な身近なテーマである。

#### (4) その他

○軽井沢の将来を考えるワークショップイベントの報告について、事務局より報告

- ・平成30年1月18日（木）に軽井沢発地市庭イベントスペースにて、第1回と同様に宮内順氏（元東海大学経営学部観光ビジネス学科教授）にファシリテータをお願いし実施した。
- ・町民・別荘民・基本会議委員など24名の参加者で、ワールドカフェ形式で、第1ラウンドは「軽井沢の未来は何か」、第2ラウンドは「軽井沢の未来にいまなすべきことは何か」をテーマとして意見交換をした。

○SNSの運用について事務局より連絡

- ・引き続き委員の皆さんにも支援してもらいたい。

○風土フォーラム事務局に寄せられた意見について事務局より報告

#### 4. 事務連絡

○第12回風土フォーラム基本会議は、平成30年3月28日（水）14時から開催する。

○新年度に向け各委員の意向があれば事務局へ連絡する。

#### 5. 閉 会